

## 平成27年度第2回全国獣医師会会長会議の会議概要

I 日時：平成27年10月2日(金) 14:00～17:00

II 場所：明治記念館2階「鳳凰の間」

III 出席者：

**【地方獣医師会】**

55 地方獣医師会ほか

**【日本獣医師会】**

会 長：藏内勇夫

副 会 長：砂原和文, 村中志朗, 酒井健夫

専務理事：境 政人

地区理事：高橋 徹, 山内正孝, 高橋三男, 小松泰史,

宮澤 宏, 玉井公宏, 安食政幸, 寺町光博,

坂本 紘

職域理事：麻生 哲, 細井戸大成, 横尾 彰,

鎌田健義, 加地祥文, 木村芳之,

栗本まさ子

監 事：柴山隆史, 山根 晃

IV 議 事：

**【説明・報告事項】**

- 1 特別委員会及び部会委員会に関する件
- 2 当面の課題への対応方針（ロードマップの策定）に関する件
- 3 日本獣医師会獣医学術学会年次大会の開催に関する件
- 4 2015 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day” の開催に関する件
- 5 世界獣医学協会-世界医師会 “One Health” に関する国際会議の開催に関する件
- 6 日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム「越境性感染症の現状と課題」の開催に関する件

**【その他の報告・連絡事項】**

- 1 当面の主要会議等の開催計画に関する件
- 2 日本獣医師政治連盟の活動報告
- 3 その他

V 会議概要：

**【会長挨拶】**

藏内会長から、大要次の挨拶がなされた。

**【藏内会長挨拶】**

本日は天候不順の中、本会議への出席とともに、日頃からの本会への支援について厚く御礼を申し上げます。先日の関東地区、東北地区の豪雨災害については、地区獣医師会によるさまざまな支援活動が実施されているが、本会としてもできる限りの支援をしたい。

また、8月から各地区で開催されている地区獣医師大会・獣医学術地区学会にはできる限り出席させていただき、地域のさまざまな声を聞かせていただくとともに、就任以来申し上げているように本会と地方獣医師会は表裏一体で、共通の問題意識、目的を持って課題解決に邁進する必要があることをお話ししている。

このようなことを背景にこの全国獣医師会会長会議を開催したところである。

本会議はきわめて重要な会議であるとの認識から、単なる意見交換の場ではなく意思統一の場と捉え、常設の正副議長を配置することとし、議長に関東地区の高橋三男埼玉県獣医師会会長、副議長に中部地区の宮澤宏前長野県獣医師会会長に就任いただいた。お二方の高い見識と豊富な経験で意見の取りまとめをいただくことを期待申し上げる。

私は1期2年間、スピード感を持って方向性を示すべき課題については3つの特別委員会を設置し、検討を進めてきた。その中の1つが、人と動物の共通感染症、特に狂犬病対策であり、これは医師会と連携して対応することが不可欠との認識から、医師会との連携についても委員会を設置した。

現在、全国の25の地域において獣医師会と医師会の間で協定が締結され、本会は日本医師会と連携して2回のシンポジウムを開催し、来る11月6日には日本医師会館で越境性感染症をテーマとした第3回目のシンポジウムを開催する予定である。さらに世界医師会、世界獣医師会の合同開催による「One World, One Health」の世界大会が5月にスペインのマドリッドで開催され、私と横倉会長がわが国を代表して講演をさせていただき、世界各国のわが国に対する高い関心を改めて感じたところである。

また、先週は、モンゴルのウランバートルで開催されたアジア獣医師会連合の代表者会議に出席したが、5月のOne Health大会の報告と、このような医師会との連携の取り組みの推進を申し述べ、賛同を得た。モンゴルの獣医師会は新潟県獣医師会と交流があり、温かくお迎えいただいた。また、本会が平成4年から14年までの10年間、アジア地区の獣医師をわが国に招聘して研修を行った国際研修事業においては、114名の研修生のうち19名をモンゴル出身者が占めていた。今回の会議では本研修生であった方々から歓待されたが、研修修了者は現在、地方の知事や、大学の教授等、モンゴルの指導者として活躍をされており、本会をはじめ、研修生を受け

入れた大学、関係者等、日本に対する感謝が述べられ、私からは、両国の獣医師会同士はもちろん、ぜひ、日本とモンゴルとの架け橋となつてほしい旨申し上げた。

モンゴルは内陸の国であり、自然環境の厳しさとともに四方を大国に囲まれていながら、高い外交能力により国を営々と維持しており、人材の育成の重要性を改めて認識したところである。

本日は本会議で本会と地方獣医師会が改めて一体感を持って、諸々の課題、あるいは重要な事業等に邁進すべく実りある議論をいただくとともに、さらに全国の地方獣医師会会長の支援により開催される明日の動物感謝デーが、充実した一日となるよう期待しているところである。

それでは高橋、宮澤正副議長に会議の進行をお願い申し上げます。

#### 【顧問挨拶】

北村顧問から、大要次のとおりの挨拶が行われた。

#### 〔北村顧問挨拶〕

先ほど、藏内会長が申されたとおり、日本獣医師会と55の地方獣医師会は表裏一体であると同様、日本獣医師政治連盟も55の地方政治連盟の関係者に支援をいただいております。さらに日本獣医師政治連盟も日本獣医師会と車の両輪のごとく前進すべき大切な時期にある。

顧問という立場からは、本会、地方獣医師会への入会がステータスであることを全国16の獣医学系大学の若い学生たちに醸成することが重要であり、われわれ獣医師会は次の世代に向かってビジョンを大きく発信する必要があります。その意味でも、本会議は、地方獣医師会の声を受けて、さらにその声を地方獣医師会の会員獣医師へ発信する大変意義のある場であると考えている。ぜひ、その旨ご理解の上、本会議が実り多い有意義な会議となるとともに、明日、動物感謝デーが各位の支援により、多くの市民、関係者とともに充実した一日となるよう心からお願いを申し上げます。

#### 【日本獣医師会新役員の紹介】

事務局から、本年6月22日に選任された日本獣医師会の新役員の紹介が行われた。

#### 【議長・副議長挨拶】

高橋三男議長、宮澤 宏副議長の就任にあたり、大要次のとおり挨拶がなされた。

#### 〔高橋議長挨拶〕

この歴史と伝統のある日本獣医師会では、毎年総会では、その都度、出席者の中から議長を交代で選出してきた。一方、少子化対策、高齢化等、目まぐるしく社会情勢が動く中でわれわれ獣医師の業務内容も多様化してい

るが、2年前、藏内会長が就任されて改革の中の一つに本会議を挙げられ、総会とは違った角度から日本獣医師会と地方獣医師会の意思統一を図りたいとの意向により、前回、本会議の議長を仰せつかり2年間務めさせていただいた。藏内会長、北村政連委員長と二人三脚で構成獣医師の声をしっかりと聞き、それらを踏まえ、スピード感を持って諸々の行事を展開しているところである。そのような中で今回、宮澤先生と正副議長を仰せつかり、地方獣医師会と日本獣医師会のコーディネーターとして、議長を務めたいと思っている。各位の深い理解と協力を心からお願い申し上げます。暫時、議長の座を務めさせていただきたい。

#### 〔宮澤副議長挨拶〕

このたび大役の副議長という席に着かせていただくこととなり、大変戸惑っているところであるが、前期2年にわたり名議長として経験豊かな高橋議長の下で補佐役として議事運営のために全力を尽くしたい。どうか各位の温かな協力をよろしくお願いしたい。

#### 【正副議長就任】

高橋議長、宮澤副議長が就任し、以下のとおり議事が進められた。

#### 【議 事】

#### 〔説明・報告事項〕

#### 1 特別委員会及び部会委員会に関する件

境専務理事から、平成27年度の特別委員会及び職域別部会の活動計画について説明が行われた。基本方針として、①費用対効果を考慮して重要な課題にはスピード感を持って取り組む、②委員会の設置にあたり地方会と情報の共有化を図りながら適材適所で委員を選任する、③テーマの設定にあたり重要性、緊急性を考慮してスクラップ&ビルドを基本にテーマ数を絞る、④複数にまたがるテーマについては関連部会間で調整して効率的に検討を行う、⑤委員会ではできる限りEメールを活用して効率的な運営を図ることが報告された。

また、今期の特別委員会では、①「人と動物の共通感染症対策特別委員会」として「医師会との連携推進委員会」、「狂犬病予防体制整備委員会」、さらに②「マイクロチップ普及推進特別委員会」の2つの特別委員会を設置することとその内容が説明されたほか、各部会委員会の検討テーマ、構成、委員について説明が行われた後、以下のとおり意見交換が行われた。

意見1：特別委員会において女性獣医師の復職に関する委員会がスクラップされたのはわかるが、ビルドに力を入れた内容があれば教えてほしい。

回答1：これまでの調査や委員会での検討等により女性獣医師の復職に関する問題点が明確になったことが

ら、特別委員会としての設置はせず、職域別部会の委員会として、今後は一歩進んで講習会の開催や情報提供等の復職支援策について検討することとした。また、医師会との連携推進委員会については、今期中にすべての地方獣医師会と地方医師会間における学術協定の締結を目標とする一方、医師会とともに人と動物の共通感染症の防止対策に取り組みたい。さらに狂犬病はわれわれにとって重要な課題で医師会も危機感を持っており、前期特別委員会において方向性をとりまとめたことから、具体的な方策を検討したい。ついては、今期はこの医師会と狂犬病の2つの委員会を「人と動物の共通感染症対策特別委員会」として解決を図るための検討を行うこととしたい。また、動愛法の次回改正（平成30年予定）では、マイクロチップ装着の義務化を図ることが付則に明記されているが、本件に対して本会の方針を示す必要があり、主導権を握り責任を持って対応していきたい。これらを踏まえ、今期の特別委員会は「人と動物の共通感染症対策特別委員会」と「マイクロチップ普及推進特別委員会」の2つの特別委員会に絞ったところである。

**意見2：**家畜衛生部会と公衆衛生部会に公務員獣医師の処遇改善が入っている。勤務獣医師ではなく、なぜ公務員獣医師に限定したのか。

**回答2：**公務員獣医師は勤務獣医師の評価の原点となっており、地方の公務員獣医師の処遇がどうあるかによって、共済あるいは民間の勤務獣医師の処遇が図られている。そのような中でまずは公務員獣医師の処遇を改善することを推進する。

**意見3：**小動物の飼育率の減少が問題となっているが、人間のためにも動物愛護の心を持つ優しい人の輪が広がることが重要であるので、広く全国の獣医師会の協力をいただきたい。

## 2 当面の課題への対応方針（ロードマップの策定）に関する件

境専務理事から、今後の事業推進における対応方針（ロードマップの策定）の作成とロードマップの構成内容について説明が行われた後、「医師会との連携推進委員会について」、「狂犬病予防体制整備委員会について」、「マイクロチップの普及に関する特別委員会について」、「小動物臨床委員会における認定動物看護師の公的資格化の検討について」、「女性獣医師支援対策検討委員会について」のそれぞれの事業内容について、今後5年間の課題、方針を含めたロードマップに係る説明が行われ、以下の意見交換が行われた。

**意見1：**医師会との連携を進める上で、まだ協定書が未締結の地方獣医師会に対して本会からより具体的な支援活動とともに、日本医師会からの各地方医師会への

より強い指導が望まれる。

**回答1：**医師会は医療・技術においてもわれわれよりも遙かに進んでいる面があり、われわれは、医師会との交流を通じてわれわれ自身のスキルアップ、レベルアップにつなげる必要がある。日本医師会としては地方の医師会に何度も通達をしているが、それぞれの地方医師会にパーソナリティがあり、本会の役員と日本医師会の役員が地域の状況を把握し、対応策を見極めたい。今後、われわれ役員が積極的に連携の支援を行い、必要があれば地方へ伺いたい。

**意見2：**狂犬病予防体制の関係業務において、狂犬病発生時を想定した開業獣医師向けの防疫演習が必要であり、厚生労働省に本件の呼びかけを行っていただきたい。

## 3 日本獣医師会獣医学術学会年次大会の開催に関する件

境専務理事から、平成27年度学会年次大会については、平成28年2月26日（金）～28日（日）、秋田キャッスルホテル、秋田アトリオン、にぎわい交流館AUにおいて、秋田県獣医師会共催（秋田県獣医師会運営委託・東北獣医師会連合会協力開催形式）により、平成28年度学会年次大会については、平成29年2月24日（金）～26日（日）、石川県立音楽堂ほか、金沢駅周辺会場（予定）において石川県獣医師会共催（石川県獣医師会運営委託・中部獣医師会連合会協力開催形式）により開催する予定である旨が説明された。その後、秋田県獣医師会の砂原会長から、平成27年度獣医学術学会年次大会（秋田）への参加協力が依頼された。

## 4 2015 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day” の開催に関する件

境専務理事から、「2015 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day”」については、平成27年10月3日（土）10時、東京都立駒沢オリンピック公園中央広場で、関係省庁、地元自治体、関係団体からの後援、関係機関・団体・企業から協賛・協力を得て開催する予定であり、多くの方に参加いただきたい旨説明された。

## 5 世界獣医学協会-世界医師会 “One Health” に関する国際会議の開催に関する件

境専務理事から、「第2回 世界獣医学協会-世界医師会 “One Health” に関する国際会議（GCOH）開催概要」について、日本における開催を打診されるまでの経過、目的、さらに現時点での本件に関する見込みについて報告が行われた。

続いて藏内会長から、スペインのマドリードで行われた第1回 GCOH における講演内容や会場の反応等が報

告されたほか、さらに第2回の国際会議開催の要望が世界獣医師会と世界医師会から寄せられたことから、開催地や開催時期等の検討を進めていることについて、説明が行われた。

## 6 日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム「越境性感染症の現状と課題」の開催に関する件

境専務理事から、第3回 日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム「越境性感染症の現状と課題」の開催の概要について説明が行われるとともに、多数参加いただきたい旨、各地方獣医師会への依頼が行われた。

### 〔その他の報告・連絡事項〕

#### 1 当面の主要会議等の開催計画に関する件

境専務理事から、当面の関係会議等の開催日程について説明が行われた。

#### 2 日本獣医師政治連盟の活動報告

日本獣医師政治連盟の北村委員長から、日本獣医師政治連盟の活動状況について大要以下の報告が行われた。

**北村委員長報告：**日本獣医師政治連盟においては、委員長は北村、副委員長に神奈川県獣医師会の鳥海会長、幹事長に香川県獣医師会会長の篠原会長、会計責任者に日本獣医師会の境専務理事に就任いただいた。この体制で、日本獣医師会の定期総会後に数回四役会議を開催している。

また、本日の四役会議の後、平成27年度の第3回日本獣医師政治連盟の役員会を開催し、執行部から、特に来年の参議院選挙の件について報告をしたところである。

これまで政治連盟の委員長として各地区の獣医師大会において、時間をいただきお話をさせていただいた。骨太方針等々で安倍内閣が策定した基本方針にある規制緩和による、成長戦略特区としての獣医学科、獣医学部の新設について、藏内会長ともども、われわれ幹事長、副委員長、そして多くの地方獣医師会の先生方の支援を得て、さまざまな人脈を使って精神的に対応に努め、その結果、最終的に担当大臣である石破茂地方創生大臣に文言をまとめていただいた。その内容は、既存の16獣医学系大学以外の獣医師養成の構想が具体化し、さらに需要があり、その需要はライフサイエンスなど新しい分野であること、また、その中の「かつ、既存の大学の学部で対応できない場合には検討する。」という文言から、既存の16獣医学系大学で対応できない場合など考えられず、内閣が再び新設は行わないと閣議決定したものと思っているが、藏内会長からは、「そんなに甘いものではない」と厳

しい意見をいただいた。獣医学部、獣医学科は文部科学省が設置するが、JAの改革、あるいは医療の分野でも東北で特区による医学部の新設が認められ、さらに成田にも外国人を対象とした医学部の新設が認められた。一方で、既存の医学部の定数削減を政府内で検討するとのことであり、これを獣医師・獣医療におきかえると、新たな獣医学科を認め、既存の16獣医学系大学の定数を減らすという、おかしな政策となる。しかし、時の総理大臣が認めてしまえば、文部科学省の認可は別としても新設されることから、われわれは今後も注視すべきである。

9月9日に藏内会長と石破大臣にお会いし、文言について2時間近く意見交換を行った。石破大臣からは、北村委員長から毎日のようにメール、電話があり、本当に参ったと話されたが、最終的にこの構想が具体化すること、需要が明確でないことの2点を自身で考えられ、さらに、石破大臣と近い長野県選出の小坂憲次参議院議員からもアドバイスを受け、16獣医学系大学でできない旨を加えたという。今後も動向を見極めながら、皆様と共有した情報の中で今後の対応を政治連盟として考えていきたい。

また、来年の参議院選挙に向け、われわれの取り組みを理解し、行動を共にしてくれる参議院議員の候補者を選定していかなければならない。一義的には、地方獣医師会においては地元の参議院候補は、責任をもって推薦について協議いただき、また、全国区の候補者についても、地方獣医師会がこれまでの関係等の事情で推薦をせざるを得ない候補者については、日本獣医師政治連盟に推薦いただきたい。

同時に、日本医師会と日本獣医師会は協定を結び、現在は55地方獣医師会のうち、25（会議当日現在）で協定が締結されている。来年の選挙については日本医師会以外でも、薬剤師会、歯科医師会、あるいは看護協会等々はそれぞれ独自の候補者を持っており、日本医師会の横倉会長をはじめ多くの関係者は、日本医師会であっても支援候補者を当選させることは難しいと考えていると思われ、日本獣医師会、地方獣医師会からの支援を大きく期待していると考ええる。

日本獣医師政治連盟からはさまざまな情報を皆様に提供申し上げるので、その上でそれぞれの地方獣医師会で決定いただきたい。本日の役員会でも最終的には四役に一任ということで、来年の2月の秋田における日本獣医師政治連盟の通常総会時に報告をして、その方向性で来年の7月の選挙に向けて推進することとした。

本日は、全国の獣医師会会長会議の席にこのように時間をいただいた、高橋、宮澤正副議長に感謝を申し上げると同時に、政治連盟としてはすべてお願いごと

であり、各位からの尊い会費をいただいているが、現在、新聞紙上を賑わしている他の政治連盟とは、対抗できないが、そのような中でも力一杯応援をしていくことが日本獣医師会の発展につながっていく、ひいては会員に必ず返ってくると考えており、ぜひ、各位のさらなるご協力を心からお願い申し上げたい。

**藏内会長追加発言：**日本獣医師会と地方獣医師会は表裏一体であり、課題解決には日本獣医師会と日本獣医師会政治連盟が車の両輪として解決にあたっていただいている、政治連盟の北村委員長、鳥海副委員長、篠原幹事長はじめ役員の方々には、ほぼ毎日のように官邸をはじめ、対応いただいている。その一端を披露いただいたが、私も三度ほど石破大臣とお会いして話をしたが、大臣は北村委員長と親しい間柄であり、委員長から石破大臣に毎朝メールが届くということは、われわれの考え方が石破先生方にしっかり伝達されているということである。

昨日も医師会の横倉会長と意見交換を行い、連携する中で両会ともに大学の新設阻止に努めているが、成長戦略の中で成田に外国人向けの医学部新設が認められ、少し前には、自由民主党に対する日本最大の政治団体である農協が反対にも関わらず改革案を押し付けられた。日本医師会もわれわれの何倍もの力を持った団体であるが、押し切られた。一方、少なくともわれわれはこれまでの報告のように、しっかりした形でディフェンスができてきていることは、われわれの獣医師問題議員連盟の麻生会長をはじめ、国会議員の方々も地方会の支えにより活躍されていることであり、中でも麻生会長はご自身で文部科学大臣に対して、理由を記し反対の文書を提出されている。この文書は、安倍総理にもご覧いただいていると伺っており、本内閣は、安倍総理、麻生副総理、菅官房長官が中心となっており、近々行われる内閣改造でも麻生副総理と菅官

房長官は留任すると思われ、ナンバー1である安倍総理は、成長戦略で某私立大学ときわめて緊密であり新設を推進しているが、ナンバー2の麻生副総理が絶対反対という立場で、対応されている。北村委員長のお話のとおり、われわれも単に政治家に委ねるだけでなく、誠意をもって支援をすることにより、本腰を入れて取り組んでいただける。北村委員長はじめ、政治連盟の関係者の苦勞に心から感謝を申し上げるとともに、全国の会長各位に政治連盟の活動に対しての支援をお願いする次第である。

### 3 その他

(1) 境専務理事から、関東・東北豪雨に係る構成獣医師の被害状況等について資料をもとに被害状況と対応の説明が行われた後、茨城県獣医師会の小林会長から避難と援助の状況報告と御礼の挨拶が行われた。

さらに、被害の数日後に開催された関東・東京合同地区獣医師大会において、茨城県獣医師会が実施した被害状況のとりまとめの報告が行われた旨、横浜市獣医師会の井上会長から報告されるとともに、井上会長から茨城県獣医師会の非常に迅速な対応への賞賛が述べられた。

(2) 神奈川県獣医師会の鳥海会長から、事前に意見として提出した倫理綱領の文言の整合性についての説明が行われ、本件については、今後、総務委員会において検討を進め、来年の総会までには検討結果をお示ししたい旨、境専務理事から報告が行われた。

(3) 神戸市獣医師会の中島会長から、狂犬病予防体制整備委員会委員長として委員会を進めるにあたり、非会員とも協力して国民を狂犬病の猛威から守ることが重要であり、今後は狂犬病ワクチンの使用の安全性の担保、補償についても重要課題として挙げている旨説明が行われた。